

地球への小天体衝突に対する日本スペースガード協会の対応と方針

The measures and the future plans of Japan Spaceguard Association to the small solar system body collision to the Earth

高橋 典嗣¹, 吉川 真², 奥村 真一郎^{1*}, 浅見 敦夫¹, 西山 広太¹, 浦川 聖太郎¹, 坂本 強¹, 橋本 就安¹

TAKAHASHI, Noritsugu¹, Makoto Yoshikawa², Shin-ichiro Okumura^{1*}, ASAMI, Atsuo¹, NISHIYAMA, Kota¹, Seitaro URAKAWA¹, SAKAMOTO, Tsuyoshi¹, HASHIMOTO, Nariyasu¹

¹ 日本スペースガード協会, ² 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所

¹ Japan Spaceguard Association, ² JAXA/ISAS

「スペースガード」とは地球に衝突する可能性のある「地球接近天体」を発見・監視し、そのような天体の地球衝突を回避して地球をまもるための活動の事をいう。日本では日本スペースガード協会 (JSGA) が1996年に組織され、現在に至り活動を続けている。1999年には美星スペースガードセンターが地球接近天体とスペースデブリの観測専用施設として岡山県の美星町に建設された。2000年初頭から観測を開始し、この13年間に300個以上の番号登録された小惑星と1000個以上の仮符号付き小惑星を発見した。また、900個以上の地球接近天体について軌道を精度良く決定するための追跡位置観測も実施した。またこのような観測活動に加え、研究活動や啓蒙活動、アウトリーチ活動も重要と考えて実施してきた。講演では我々日本スペースガード協会のこれまでの活動に加え、今回のロシアへの隕石の落下をふまえて今後の対策と方針、たとえば新しい観測システムの検討や衝突予測に関する検討などを開始したのでこれらについて紹介する。

キーワード: 太陽系小天体, 隕石衝突, スペースガード

Keywords: small solar system body, meteorite collision, space guard